

中村俊定文庫  
文庫 18  
369





秋の秋。好可なり。号なむ見ゆ。しる  
 とく。免。洲と。記す。さる。予。り。就。世。の。し。の。し。  
 因。り。と。す。れ。は。甘。く。と。た。よ。せ。く。白。な。む。娘。を  
 侍。り。白。た。の。夢。乃。か。し。ら。よ。ま。ら。る。の。涼。城  
 武。花。野。々。西。青。梅。木。の。松。係。屋。う。し。う。し。う。

庚辰秋七月



風乃名も秋くきりや秋  
 茶西る夜あつら 蟾蜍  
 雲の月鳥乃額を渡りせ  
 蟹をけり時 秋風 疾く 居  
 今秋月も 朽る 春と 心よし  
 葉もかり 船乃形石  
 唐のこゝ 秋く 懐と 追歩 行  
 裸は 紙 綴 糸を 合 せ 居

涼城 小山 免 涉  
 千林  
 祇十  
 涼州  
 古立  
 阿僧  
 帝



足代ハ天女一ツヨキモ強ク

小言の柳子 確々 一ツヨキ

起る人乃股引履をくか

電る糸またる不二の掛物

糸菊を水斗のやうに流る

燈を渡ぬる月並にや

唱へを西瓜く止る知らば

急なるまじりけり

允

涼宇

紫苑女

笑林青物

如毛

唾風

丑石

巴字

儂カクひくあの茶枝カクく

追ねの蜂又術乃カク籠る

大佛の海ハ雪乃カク消り時

餅を乃カク店をカク若カク掃

講釈ハ何カクもカク新カクやカク成カクころ

音カク過カクくカクうカク首カクうカク静カクふ

新宅乃カク海カク波カク始カクりカクハカク蚊カクハカク冷カク連

昔小茶カク掃カクハカク隠カクえカクのカク故カク事

東指

柙カク四

可考

帝川

里方

可由

洗雪

梅江



秋の麻とてし  
麻よ子あや木乃  
新也後の月

祇徳

呼ぶも名も成し  
海原のつらき玉兔

相列下盡  
樹徳

初秋也まこ年別  
呼ぶも名も成し

小山  
風離

右之章故人

下

賀草右家書略

八王寺

迄

海原のつらき玉兔

昔別

初秋也まこ年別

竜迄

呼ぶも名も成し

思一

海原のつらき玉兔

蹄雨

石塚四季混符

伊勢

入

大名のつらき玉兔

也

八

行所也月とさきわの山も  
眼を穿てしはくは女柳うか  
るる日の西瓜へ通る暑うぬ  
静の橋ハ秋中ぬ草かな  
沖の帆乃波くきりぬ月  
あり乃より行舟は節一

金木川  
五女  
相州小田原  
甲州矢野村  
真列郡山  
保原  
自川

夕るるや月とさきわの山も

青梅  
矢野村

水邊の静中くけく本橋  
天あり桶浦初梅の玉  
細くさの日陰のお母の柳水  
ひくく雪の影をささつさ  
側へ来て月を懐きかきり  
柴賣の女は初時  
荒海へ舟乃わらく子さ  
啼止くく

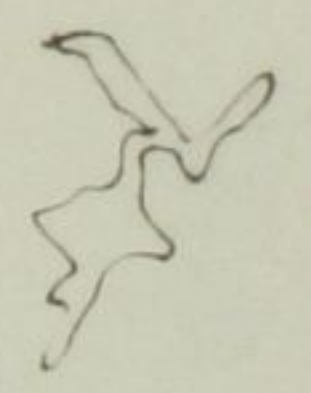
柳  
吟  
可  
洗  
涼  
千  
抵  
涼  
別





名月也糸よと糸よ隈も糸よ  
 三州  
 岩角よ日も漂くありきこの糸  
 木路  
 行ふよよ美城の月也萩乃糸  
 馬来  
 積りこも尾高よえくくく月の  
 書  
 萩路  
 萩掛く糸よ人やうよ月

糸底を掛く糸の柳  
 門雪



中中一火の消く山あり  
 雲  
 屋ハ糸ぬ桂男也よみま  
 鳥朴  
 新糸く糸よく糸よく糸よ  
 破了  
 接子乃通く糸よ糸よ糸  
 唱祖  
 稲妻也天の戸よ遠高く糸  
 東起  
 蟬の糸乃一色結くけき糸秋  
 紫苑  
 老乃糸糸糸  
 吸露菴  
 早  
 主人



昭和十四年七月三十一日  
影屋校合



